



# Cisco HyperFlex Systems サーバーのインストール

この章では、HyperFlex クラスタをセットアップするための物理コンポーネントのインストール方法を説明します。

- [ラック設置型 Cisco HyperFlex ノード \(1 ページ\)](#)
- [ファブリック インターコネクットのセットアップ \(2 ページ\)](#)
- [HX シリーズサーバと Cisco UCS ファブリック インターコネクットの接続 \(10 ページ\)](#)

## ラック設置型 Cisco HyperFlex ノード

HyperFlex クラスタとノードの制限の詳細については、「[Cisco HX データ プラットフォームのリリース ノート](#)」の最新リリースで、[\[Cisco HX データ プラットフォーム ストレージ クラスタ仕様 \(Cisco HX Data Platform Storage Cluster Specifications\)\]](#)を参照してください。

UCS C シリーズのインテグレーションの指針については、お使いのリリースの [Cisco UCS C シリーズサーバへの Cisco UCS Manager のインテグレーション設定ガイド](#)を参照してください。

Cisco HyperFlex ノードのインストールの詳細については、下の表のそれぞれのリンクを参照してください。

インストールするノードの種類	参考資料
コンバージドノード数	
HyperFlex HX245c M5/M6 ノード	<a href="#">Cisco HyperFlex HX245c M5 ノード設置ガイド</a>
HyperFlex HX240c M5/M6 ノード	<a href="#">Cisco HyperFlex HX240c M5 ノード設置ガイド</a>
HyperFlex HX225c M5/M6 ノード	<a href="#">Cisco HyperFlex HX225c M5 ノード設置ガイド</a>
HyperFlex HX220c M5/M6 ノード	<a href="#">Cisco HyperFlex HX220c M5 ノード設置ガイド</a>
コンピューティング専用ノード	

インストールするノードの種類	参考資料
Cisco UCS B200 M5 ノード	<a href="#">Cisco UCS B200 M3/M4/M5 Blade Server Installation and Service Note</a>
Cisco UCS B480 M5 ノード	<a href="#">Cisco UCS B480 M5 Blade Server Installation and Service Note</a>
Cisco UCS C240 M5/M6 ラック ノード	<a href="#">Cisco UCS C240 サーバ インストールおよびサービス ガイド</a>
Cisco UCS C220 M5/M6 ラック ノード	<a href="#">Cisco UCS C220 サーバ インストールおよびサービス ガイド</a>
Cisco UCS C480 M5 ノード	<a href="#">Cisco UCS C480 M5 Server Installation and Service Guide</a>

## ファブリック インターコネクットのセットアップ

高度な可用性をもたらすため、次のようにファブリック インターコネクットの冗長ペアを設定します。

1. L1 または L2 の高可用性ポート間で、イーサネット ケーブルを使用して直接 2 つのファブリック インターコネクットに接続します。
2. ファブリック インターコネクット A 上のポート L1 を ファブリック インターコネクット B 上のポート L1 に接続し、ファブリック インターコネクット A 上のポート L2 をファブリック インターコネクット B 上のポート L2 に接続します。

これにより、2 つのファブリック インターコネクットは、互いのステータスを継続的にモニターします。

ファブリック インターコネクットを接続する前に、以下の情報を確認し、取得してください。

項目	説明
ファブリック インターコネクットの物理的な接続を確認します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 つ目のファブリック インターコネクットのコンソール ポートが、コンピュータまたはコンソール サーバに物理的に接続されている。</li> <li>• 管理イーサネット ポート (mgmt0) が外部のハブ、スイッチ、またはルータに接続されている。</li> <li>• 両方のファブリック インターコネクットの L1 ポートが互いに直接接続されている。</li> <li>• 両方のファブリック インターコネクットの L2 ポートが互いに直接接続されている。</li> </ul>

項目	説明
コンピュータ端末でコンソールポートのパラメータを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 9600 ボー</li> <li>• 8 データ ビット</li> <li>• パリティなし</li> <li>• 1 ストップ ビット</li> </ul>
初期セットアップに関する情報を入手します。	初期セットアップに関する次の情報を収集します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• システム名</li> <li>• 管理者アカウントのパスワード</li> <li>• 3 つの静的 IP アドレス</li> <li>• 3 つの静的 IP アドレスのサブネット マスク</li> <li>• デフォルト ゲートウェイの IP アドレス</li> <li>• DNS サーバの IP アドレス</li> <li>• システムのドメイン名</li> </ul>

両方のファブリック インターコネクタが同じセットアッププロセスを通過する必要があります。プライマリ ファブリック インターコネクタをセットアップして、クラスタ設定用に有効にします。同じプロセスを使用してセカンダリ ファブリック インターコネクタをセットアップするときには、最初のファブリック インターコネクタがピアとして検出されます。

## Cisco UCS Manager GUI を使用したプライマリ ファブリック インターコネクタの設定

設定を始める前に、同じサブネットに次の 3 つの IP アドレスを指定します。

- プライマリ ファブリック インターコネクタ FI A の管理ポート IP アドレス
- セカンダリ ファブリック インターコネクタ FI B の管理ポートの IP アドレス
- HyperFlex クラスタの IP アドレス。

次のように Cisco UCS Manager GUI を使用してプライマリ ファブリック インターコネクタを設定します。

- 
- ステップ 1** コンソールポートに接続します。詳細については、[Cisco 6200 Series Fabric Interconnect Hardware Installation guide](#)を参照してください。
- ステップ 2** ファブリック インターコネクタの電源を入れます。ファブリック インターコネクタが起動する際、電源オンセルフテストのメッセージが表示されます。

**ステップ 3** インストール方式プロンプトに *gui* と入力します。

**ステップ 4** システムが DHCP サーバにアクセスできない場合は、次の情報を入力するよう求められます。

- ファブリック インターコネクタの管理ポートの IPv4 アドレス。
- ファブリック インターコネクタの管理ポートの IPv4 サブネット マスク。
- ファブリック インターコネクタに割り当てられたデフォルト ゲートウェイの IPv4。

**重要** すべての IP アドレスは IPv4 である必要があります。HyperFlex は IPv6 アドレスをサポートしていません。

**ステップ 5** プロンプトから、Web ブラウザに Web リンクをコピーし、Cisco UCS Manager 起動ページに移動します。

**ステップ 6** **[Express Setup (Express セットアップ)]** を選択します。

**ステップ 7** **[Initial Setup (初期セットアップ)]** を選択し、**[Submit (送信)]** をクリックします。

**ステップ 8** **[Cluster and Fabric Setup (クラスタおよびファブリック セットアップ)]** 領域で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明 (Description)
<b>[Enable Cluster (クラスタの有効化)]</b> オプション	<b>[Enable Cluster (クラスタの有効化)]</b> オプションを選択します。
<b>[Fabric Setup]</b> オプション	<b>[Fabric A (ファブリック A)]</b> を選択します。
<b>[Cluster IP Address]</b> フィールド	Cisco UCS Manager が使用する IPv4 アドレスを入力します。

**ステップ 9** **[System Setup (システム セットアップ)]** 領域で、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
<b>[システム名 (System Name) ]</b> フィールド	Cisco UCS ドメインに割り当てられる名前。
<b>[Admin Password]</b> フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理者アカウントに使用されるパスワード。  Cisco UCS Manager のパスワードのガイドラインに適合する強力なパスワードを選択します。このパスワードは空にできません。
<b>[Confirm Admin Password]</b> フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理者アカウントに使用されるパスワード。
<b>[Mgmt IP Address]</b> フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理ポートの固定 IP アドレス。
<b>[Mgmt IP Netmask]</b> フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理ポートの IP サブネット マスク。

フィールド	説明
[Default Gateway] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理ポートに割り当てられるデフォルトゲートウェイの IP アドレス。
[DNS Server IP] フィールド	ファブリック インターコネクタ上の管理ポートに割り当てられる DNS サーバの IP アドレス。
[Domain name] フィールド	ファブリック インターコネクタが存在するドメインの名前。

- ステップ 10** [送信 (Submit) ] をクリックします。  
セットアップ操作の結果がページに表示されます。

## Cisco UCS Manager GUI を使用したセカンダリ ファブリック インターコネクタの設定

セカンダリ ファブリック インターコネクタのコンソールポートが、コンピュータまたはコンソールサーバに物理的に接続されていることを確認します。以前設定したプライマリ ファブリック インターコネクタでの管理者アカウントのパスワードを知っていることを確認します。

- ステップ 1** コンソールポートに接続します。詳細については、[Cisco 6200 Series Fabric Interconnect Hardware Installation guide](#)を参照してください。
- ステップ 2** ファブリック インターコネクタの電源を入れます。ファブリック インターコネクタが起動する際、電源オンセルフテストのメッセージが表示されます。
- ステップ 3** インストール方式プロンプトに *gui* と入力します。
- ステップ 4** システムが DHCP サーバにアクセスできない場合は、次の情報を入力するよう求められます。
- ファブリック インターコネクタの管理ポートの IPv4 アドレス。
  - ファブリック インターコネクタの管理ポートの IPv4 サブネット マスク。
  - ファブリック インターコネクタに割り当てられたデフォルトゲートウェイの IPv4 アドレス。
- (注) 設定時に両方のファブリック インターコネクタに同じ管理インターフェイスのアドレスタイプを割り当てる必要があります。
- ステップ 5** プロンプトから、Web ブラウザに Web リンクをコピーし、Cisco UCS Manager GUI 起動ページに移動します。
- ステップ 6** プロンプトから、Web ブラウザに Web リンクをコピーし、Cisco UCS Manager 起動ページに移動します。
- ステップ 7** **[Express Setup (Express セットアップ)]** を選択します。
- ステップ 8** **[Initial Setup (初期セットアップ)]** を選択し、**[Submit (送信)]** をクリックします。

## CLI を使用したプライマリ ファブリック インターコネクタの設定

ファブリック インターコネクタは、第 1 ファブリック インターコネクタの設定情報を検出します。

**ステップ 9** **[Cluster and Fabric Setup (クラスタおよびファブリック セットアップ)]** 領域で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明 (Description)
<b>[Enable Cluster (クラスタの有効化)]</b> オプション	[Enable Cluster (クラスタの有効化)] オプションを選択します。
[Fabric Setup] オプション	[Fabric B (ファブリック B)] を選択します。

**ステップ 10** **[System Setup (システム セットアップ)]** 領域の **[Admin Password of Master (マスターの管理者パスワード)]** フィールドに管理者アカウントのパスワードを入力します。 **[Manager Initial Setup (Manager の初期セットアップ)]** 領域が表示されます。

**ステップ 11** **[Manager Initial Setup (Manager の初期セットアップ)]** 領域で表示されるフィールドは、第 1 ファブリック インターコネクタを IPv4 のどちらの管理アドレスで設定したかによって異なります。次のように、設定に適したフィールドに入力します。

フィールド	説明
<b>[Peer FI is IPv4 Cluster enabled. [local FI Mgmt0 IPv4 address (ローカル FI Mgmt0 IPv4 アドレス)]</b> フィールドに入力してください。	ローカル ファブリック インターコネクタの Mgmt0 インターフェイスの IPv4 アドレスを入力します。

**ステップ 12** [送信 (Submit) ] をクリックします。  
セットアップ操作の結果がページに表示されます。

## CLI を使用したプライマリ ファブリック インターコネクタの設定

- ステップ 1** コンソール ポートに接続します。
- ステップ 2** ファブリック インターコネクタの電源を入れます。  
ファブリック インターコネクタが起動すると、電源投入時セルフテスト メッセージが表示されます。
- ステップ 3** 設定されていないシステムがブートすると、使用する設定方法の入力を要求するプロンプトが表示されます。 **console** と入力して、コンソール CLI を使用した初期設定を続行します。
- ステップ 4** **setup** と入力して、初期システム設定を続行します。
- ステップ 5** **y** と入力して、初期設定を続行することを確認します。
- ステップ 6** 管理アカウントのパスワードを入力します。
- ステップ 7** 確認のために、管理アカウントのパスワードを再入力します。
- ステップ 8** **yes** と入力して、クラスタ構成の初期設定を続行します。
- ステップ 9** ファブリック インターコネクタのファブリックを入力します (**A** または **B**) 。
- ステップ 10** システム名を入力します。

- ステップ 11** ファブリック インターコネクタの管理ポートの IPv4 アドレスを入力します。  
IPv4 サブネット マスクを入力するように求められます。
- ステップ 12** IPv4 サブネット マスクを入力し、**[Enter]** を押します。  
ファブリック インターコネクタの管理ポート用に入力したアドレスタイプによって、デフォルト ゲートウェイの IPv4 アドレスを求められます。
- ステップ 13** デフォルト ゲートウェイの IPv4 アドレスを入力します。
- ステップ 14** DNS サーバの IP アドレスを指定する場合は **yes** を入力し、指定しない場合は **no** を入力します。
- ステップ 15** (任意) DNS サーバの IPv4 アドレスを入力します。  
アドレスタイプはファブリック インターコネクタの管理ポートのアドレスタイプと同じである必要があります。
- ステップ 16** デフォルトのドメイン名を指定する場合は **yes** を入力し、指定しない場合は **no** を入力します。
- ステップ 17** (任意) デフォルト ドメイン名を入力します。
- ステップ 18** 設定の概要を確認し、**yes** と入力して設定を保存および適用するか、**no** と入力して設定ウィザードを初めからやり直して設定を一部変更します。  
設定ウィザードのやり直しを選択した場合は、以前に入力した値が角カッコで囲まれて表示されます。以前に入力した値をそのまま使用する場合は、**Enter** を押します。

## 例

次に、コンソールおよび IPv4 管理アドレスを使用してクラスタ構成の最初のファブリック インターコネクタをセットアップする例を示します。

```
Enter the installation method (console/gui)? console
Enter the setup mode (restore from backup or initial setup) [restore/setup]? setup
You have chosen to setup a new switch. Continue? (y/n): y
Enter the password for "admin": adminpassword%958
Confirm the password for "admin": adminpassword%958
Do you want to create a new cluster on this switch (select 'no' for standalone setup
or if you want this switch to be added to an existing cluster)? (yes/no) [n]: yes
Enter the switch fabric (A/B): A
Enter the system name: foo
Mgmt0 IPv4 address: 192.168.10.10
Mgmt0 IPv4 netmask: 255.255.255.0
IPv4 address of the default gateway: 192.168.10.1
Virtual IPv4 address: 192.168.10.12
Configure the DNS Server IPv4 address? (yes/no) [n]: yes
  DNS IPv4 address: 20.10.20.10
Configure the default domain name? (yes/no) [n]: yes
  Default domain name: domainname.com
Join centralized management environment (UCS Central)? (yes/no) [n]: no
Following configurations will be applied:
  Switch Fabric=A
  System Name=foo
  Management IP Address=192.168.10.10
  Management IP Netmask=255.255.255.0
  Default Gateway=192.168.10.1
```

```
Cluster Enabled=yes
Virtual Ip Address=192.168.10.12
DNS Server=20.10.20.10
Domain Name=domainname.com
Apply and save the configuration (select 'no' if you want to re-enter)? (yes/no): yes
```

## CLI を使用した従属ファブリック インターコネクタの設定

この手順は、管理ポートに対し IPv4 アドレスを使用して第 2 のファブリック インターコネクタをセットアップする方法について説明します。



- (注) 新しいファブリック インターコネクタを既存の高可用性クラスタに追加する場合、たとえば、新規インストール時またはファブリック インターコネクタの交換時に、認証方式がリモートに設定されている限り、新しいデバイスはクラスタにログインできません。新しいファブリック インターコネクタをクラスタに正常に追加するには、認証方式を一時的にローカルに設定し、プライマリ ファブリック インターコネクタのローカル管理者資格情報を使用する必要があります。

**ステップ 1** コンソール ポートに接続します。

**ステップ 2** ファブリック インターコネクタの電源を入れます。  
ファブリック インターコネクタが起動すると、電源投入時セルフテスト メッセージが表示されます。

**ステップ 3** 設定されていないシステムがブートすると、使用する設定方法の入力を要求するプロンプトが表示されます。**console** と入力して、コンソール CLI を使用した初期設定を続行します。

- (注) ファブリック インターコネクタによって、クラスタ内のピア ファブリック インターコネクタが検出されます。検出されなかった場合は、L1 ポートと L2 ポート間の物理接続を調べ、ピア ファブリック インターコネクタがクラスタ設定でイネーブルになっていることを確認します。

**ステップ 4** **y** と入力して、従属ファブリック インターコネクタをクラスタに追加します。

**ステップ 5** ピア ファブリック インターコネクタの管理パスワードを入力します。

**ステップ 6** 従属ファブリック インターコネクタ上の管理ポートの IP アドレスを入力します。

**ステップ 7** 設定の概要を確認し、**yes** と入力して設定を保存および適用するか、**no** と入力して設定ウィザードを初めからやり直して設定を一部変更します。

設定ウィザードのやり直しを選択した場合は、以前に入力した値が角カッコで囲まれて表示されます。以前に入力した値をそのまま使用する場合は、**Enter** を押します。

### 例

次に、ピアのコンソールおよび IPv4 アドレスを使用してクラスタ設定の第 2 のファブリック インターコネクタをセットアップする例を示します。



```

Enter the installation method (console/gui)? console
Installer has detected the presence of a peer Fabric interconnect. This Fabric interconnect

will be added to the cluster. Continue (y/n) ? y
Enter the admin password of the peer Fabric Interconnect: adminpassword%958
Peer Fabric interconnect Mgmt0 IPv4 Address: 192.168.10.11
Apply and save the configuration (select 'no' if you want to re-enter)? (yes/no): yes

```

## コンソールのセットアップの確認

SSH 経由でファブリック インターコネクต์にログインすることにより、両方のファブリック インターコネクต์の設定が完全であることを確認できます。

Cisco UCS Manager CLI から次のコマンドを使用して、クラスタのステータスを確認します。

コマンド	目的	出力例
<b>show cluster state</b>	ハイアベイラビリティクラスタの両方のファブリック インターコネクットの動作状態およびリーダーシップ ロールを表示します。	次の例の表示では、両方のファブリック インターコネクットが Up 状態、HA が Ready 状態、ファブリック インターコネクット A がプライマリ ロール、ファブリック インターコネクット B が従属ロールです。  UCS-A# show cluster state Cluster Id: 0x4432f72a371511de-0xb97c000de1blada4  A: UP, PRIMARY B: UP, SUBORDINATE HA READY

コマンド	目的	出力例
<code>show cluster extended-state</code>	クラスタの状態に関する拡張詳細が表示され、通常は問題のトラブルシューティングにこれが使用されます。	<pre> 次の例は、クラスタの拡張状態の表示方法を示しています。  UCSC# show cluster extended-state 0x2e95deacbd0f11e2- 0x8ff35147e84f3de2Start time: Thu May 16 06:54:22 2013Last election time: Thu May 16 16:29:28 2015System Management Viewing the Cluster State A: UP, PRIMARY B: UP, SUBORDINATE  A: memb state UP, lead state PRIMARY, mgmt services state: UP B: memb state UP, lead state SUBORDINATE, mgmt services state: UP heartbeat state PRIMARY_OK HA READY Detailed state of the device selected for HA quorum data:  Device 1007, serial: a66b4c20-8692-11df-bd63-1b72ef3ac801, state: active Device 1010, serial: 00e3e6d0-8693-11df-9e10-0f4428357744, state: active Device 1012, serial: 1d8922c8-8693-11df-9133-89fa154e3fa1, state: active </pre>

## HX シリーズ サーバと Cisco UCS ファブリック インターコネクタの接続

### 概要

Cisco HX220c および HX240c サーバは、ファブリック インターコネクタに直接接続します。直接接続を使用すれば、Cisco UCS Manager は、1 本のケーブルで HX シリーズ サーバの管理トラフィックとデータトラフィックの両方を管理できます。



- (注) サーバをファブリック インターコネクットに接続した後、そのサーバが検出された時点で、UCS Manager 設定フォームを使用して、Cisco UCS Manager で使用可能な C シリーズ ソフトウェア バンドルを更新します。

直接接続モードを使用する場合は、すべての Cisco UCS 管理対象アダプタをファブリック インターコネクット上のサーバ ポートに接続する必要があります。要件の章に列挙されている推奨 ファームウェアが HX サーバにインストールされていることを確認してください。そうでない場合は、Cisco UCS Manager を使用してファームウェアを更新します。



- (注) UCS の設定に関する次の制限事項に注意してください。
- Cisco UCS の設定に関する一般的な制限事項：「[Cisco UCS マネージャの Cisco UCS 6200、6332、6324 と 6400 の構成制限](#)」を参照してください。

## コンバージドノードとファブリック インターコネクットの接続

このトピックでは、HX クラスタの作成や既存の HX クラスタへの追加を行うためにコンバージドノードを物理的に追加する方法について説明します。

### 始める前に



- 重要**
- Cisco UCS Manager と統合する前に、CIMC サーバを工場出荷時のデフォルトに設定します。
  - 統合ノードでは、専用の CIMC ポートをネットワークに接続しないでください。これを行うと、サーバが Cisco UCS Manager で検出されなくなります。サーバが検出されない場合は、各サーバの CIMC を出荷時の設定にリセットします。
  - 近い将来に FC ストレージを接続する必要がない場合は、ポート 1 ~ 16 のみを使用します。
  - Cisco UCS FI 6200/6300/6400 および 6400 では、ポート 1 ~ 6 を FC ポートとして設定することだけがサポートされています。今後 FC ストレージを接続する必要がある場合は、ポート 1 ~ 6 を FC に変換します。



- (注) 変換により、HX の展開が中断される場合があります。

- CIMC サーバを接続する前に、Cisco VIC 1227 が HXc240 の PCIe スロット 2 または HXc220 のライザ 1 スロット 1 に装着されており、Cisco UCS Manager と統合できることを

## 直接接続モードのクラスタ セットアップの物理的な接続の図

確認します。カードが正しいスロットに装着されていないと、サーバーの直接接続管理を有効にできません。

- サーバからファブリック インターコネクタへの物理的なケーブル接続を完了し、ポートをサーバポートとして設定します。

**ステップ 1** ラックに HX サーバを設置します。詳細については、[ラック設置型 Cisco HyperFlex ノード \(1 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 2** ファブリック インターコネクタ上のサーバポートを設定します。

- a) サーバ上の 1 つのポートから 10-Gb SFP+ ケーブルをファブリック インターコネクタ A に接続します。ファブリック インターコネクタ A 上の任意のポートを使用できますが、サーバトラフィックに対応可能なポートでなければなりません。

1 枚のカード用に、VIC からファブリック インターコネクタに 1 本のケーブルを接続します。両方のポートを同じファブリック インターコネクタに接続しないでください。

- b) そのポートをサーバポートとして FI-A で設定します。詳細な手順については、『[Cisco UCS Manager Network Management Guide](#)』の「[Configuring Port Modes for a 6248 Fabric Interconnect](#)」を参照してください。
- c) サーバ上のもう一方のポートから 10-Gb SFP+ ケーブルを FI B に接続します。FI B 上の任意のポートを使用できますが、サーバトラフィックに対応可能なポートでなければなりません。

(注) アップリンクで SFP+ タイプを混在させないでください。混在させると、「検出が失敗しました」というエラーが発生します。

- d) そのポートをサーバポートとして FI-B で設定します。詳細な手順については、『[Cisco UCS Manager Network Management Guide](#)』の「[Configuring Port Modes for a 6248 Fabric Interconnect](#)」を参照してください。

**ステップ 3** 電源コードをノードの各電源装置に接続し、接地された AC 電源コンセントにも接続します。初期ブート時に、スタンバイ電源でノードが起動するまで約 2 分間待ちます。

- (注)
1. 電力が供給されるようになると、ファブリック インターコネクタによってサーバが検出されます。UCS Manager でノードの検出を監視できます。
  2. 前面パネルのノードの [電源ステータス LED (Power Status LED)] を調べて、ノードの電源ステータスを確認します。LED がオレンジ色の場合は、ノードがスタンバイ電源モードです。

**ステップ 4** ステップ 1 ~ 4 を繰り返し、残りの HX シリーズ サーバを HyperFlex クラスタに接続します。

## 直接接続モードのクラスタ セットアップの物理的な接続の図

次の図は、C-Series Rack-Mount Server と Cisco UCS Domain、Cisco UCS Manager リリース 3.1 以降との直接接続モードの物理接続の例を示しています。次の図は、UCS Manager と C-Series

ラックマウントサーバを統合する場合の配線構成を示しています。金色で示されたパスでは、管理トラフィックとデータトラフィックの両方が伝送されます。

図 1: 直接接続ケーブル配線の設定

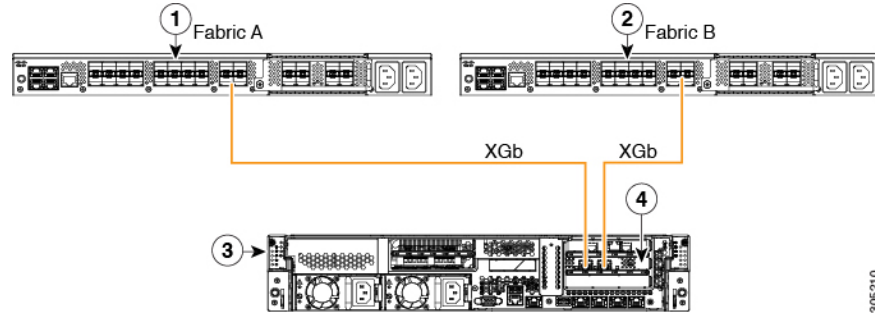
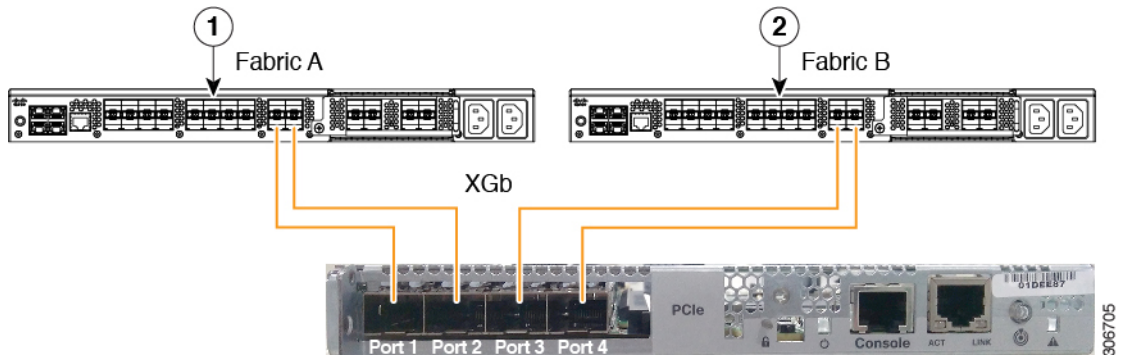


図 2: Cisco VIC 1455 との直接接続の配線構成



1	Cisco UCS 6454 ファブリック インターコネク トまたは Cisco UCS 6200、または 6300 シリー ズ FI (ファブリック A)	3	C シリーズ ラックマウント サーバ
2	Cisco UCS 6454 ファブリック インターコネク トまたは Cisco UCS 6200 または 6300 シリー ズ FI (ファブリック B)	4	サポート対象 PCIe スロット内の Cisco UCS VIC

XGb は 40 ギガビット イーサネット接続または 10 ギガビット イーサネット接続を表します。10 ギガビット イーサネットの場合、次のケーブルが使用されます。

- 4 X 10 ブレークアウト Small Form-Factor Pluggable (SFP) ケーブル
- 4 X 10 アクティブ光ケーブル (OAC)
- Qualified Security Assessor (QSA) モジュールを使用する 10G Small Form-Factor Pluggable (SFP) ケーブル

直接接続モードのクラスタ セットアップの物理的な接続の図

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。